

令和3年度 授業改善推進プラン

武蔵村山市立第二小学校

学校全体で取り組む共通事項		<ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎・基本の徹底した定着。(ひらがな、カタカナ、漢字、アルファベット、四則計算の定着) ○ チャレンジタイムで前学年までの履修事項を計画的に振り返り、確実な定着を図る。 ○ 東京ベーシック・ドリルなどで、タブレットを活用した反復練習の実施をする。 		
教科	① 児童の実態・課題	② 授業改善の取組	③ 取組結果	
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む」ことに抵抗のある児童が多く、読み取りを苦手とする児童が多い。 ・漢字学習で家庭学習の提出率が低く、定着も十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文や説明文を丁寧に読み込むだけでなく、様々な読み物に触れさせ、読むことを楽しませるようにする。図書室の利用を充実させる。 ・漢字小テストを定期的実施して定着度を図り指導に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書的时间等を活用して読み聞かせやブックトークなど本に親しむ機会を充実させた結果、すすんで読書に取り組む児童が増えた。 ・各学級で漢字小テストを定期的実施した結果、漢字の定着度の向上が見られた。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な計算の仕方(四則計算、筆算など)の定着が不十分であるため、新たな学習事項で躓いてしまうことがある。 ・文章題で示されている状況や問われていることを捉えられずに困る児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジタイムで計画的に既習事項の振り返りをし、東京ベーシック・ドリルで繰り返し取り組ませ、定着を図る。 ・文章題の内容を自分なりに図式化したり、考えたことをノートに表現したりする活動を大切に、それを交流する場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジタイムの活用等により東京ベーシック・ドリルの正答率に若干の向上が見られたが、基礎基本の定着を引き続き図りたい。 ・タブレットパソコンの活用により、多様な形での思考の表現、意見交流が可能となった。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・外で遊ぶ機会が減ったことや、マスクをつけたことで運動の制限があるため、体力の低下が懸念される。 ・ソフトボール投げの結果や、体育で運動する様子から、投げる運動の技術に大きな差が出ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間を使って全校児童で行う「縄跳び月間」や「5分間走」を計画・実施し、体力の向上を図る。感染症対策を十分考慮した上で行うこととする。 ・ボールを扱う単元においては、各学年の発達段階に即して、なれの運動から十分にボールを扱う機会を設ける。また、準備運動に投げる動きを取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「縄跳び月間」や「5分間走」の計画的な実施により、外遊びを好んでする児童が増えた。今後も感染症対策を徹底しつつ、継続していく。 ・ボールを扱う機会の充実により、休み時間にボール遊びをする児童が増えた。また、ドッジボール部の活動が奏功し、ドッジボールを好む児童が多い。 	